

8月27日

在シドニー総領事交流録 第14回

日豪友好基本条約署名50周年ガラディナー

この6月30日にキャンベラの豪州連邦議事堂内で豪日協会及び豪日経済委員会が主催した日豪友好基本条約署名50周年夕食会に、私も出席して参りましたので、遅ればせながら、そのご報告をいたします。キャンベラはシドニーに比べやや肌寒かったですが、会場に入るや、壮大な会場に約600人もの出席者が入り、その熱気に圧倒されました。

60近くものテーブルから自分の席を探す中で、ウォン外相、チャーメーズ財務相、ファレル貿易相、キング資源相を始めとする豪州連邦政府閣僚や、ラインズ上院議長、スミス下院議員（豪日議連会長）といった連邦議員、そしてジョン・ハワード元首相、野党指導者の連邦議員の姿も見られ、この式典が党派を超えたお祝いであることを実感しました。

日豪経済関係の発展に貢献されてきた多くの両国経済界リーダーに加え、小川豪日交流基金理事長や、スミス・カウラ市長、クック NSW 州下院議員（兼 NSW 州日本友好議員連盟共同会長）といったカウラを代表する方々も出席されており、政治、経済、文化交流、市民交流といった様々な分野から、日豪関係にゆかりのある多くの方々が出席され、一部の方々としかお話できませんでしたが、両国関係の裾野の広さを改めて理解できる、大変有意義な機会となりました。

日本政府からも、鈴木量博在豪大使の出席に加え、東京から堀井外務副大臣が来訪され、挨拶をしました。同晚餐会には、高市内閣総理大臣やアルバニージー首相によるビデオ・メッセージが寄せられ、ウォン外相からも挨拶がありました。



アルバニージー豪首相からのビデオ・メッセージの様子



堀井外務副大臣の挨拶の様子

高市総理は、そのメッセージの中で、「羊毛や石炭の取引に始まった日豪関係は、その経済的つながりを更に強化するとともに、いまや日本の『もがみ』型護衛艦が豪州に採用されるなど、安全保障を含め、様々な分野での連携が深化しています。私は、あらゆる面で緊密に協力する日豪両国は、先駆的な安全保障協力を進める同志国連携のフロントランナーであり、言わば「準同盟国」とも言える関係を築いている」とし、「このような緊密な関係は、

政府間の連携だけで築かれるものではありません。強固な日豪関係の礎には、長年に亘って積み重ねられてきた、良好で多層的な人と人とのつながりがあります。本日の晩餐会も、まさにそのことを物語るものです」と述べました。



高市総理からのビデオ・メッセージの様子

ウォン外相からは、1970年代初頭に両国関係は発展したが、それはほぼ船舶貿易によるもので、豪州の鉄鉱石・石炭が日本の鉄鋼産業発展を助け、豪州ではトヨタやダットサンが地歩を築いたが、貿易だけではなく、友好関係を深めることが求められており、1973年にウィットラム首相が奈良を訪問した際に、後に友好協力基本条約となる条約のアイデアを提唱したと述べられ、奈良が高市総理及び堀井副大臣の出身地であること、今回の晩餐会に中川奈良市長が出席されていることに触れた上で、1976年に労働党のウィットラム首相の後任で、自由党出身のフレーザー首相が条約に署名したが、これは二国関係への永続的な超党派による支援の証しであると続けられました。

こうした両国政府の代表からの挨拶に加えて、ダイナミックなバイロン太鼓やアン・ノーマンさんによる尺八演奏、三枝芳隆氏が奏でるディジュリドゥ（オーストラリア先住民の楽器）によるフィナーレが演奏されました。

その合間には、メラニー・ブロック元在日豪州・ニュージーランド商工会議所会頭と料理研究家のアダム・リアウ氏がオーストラリアの多文化フュージョン料理に及ぼした日本食の影響について、軽妙で笑いを誘うやりとりもありました。（写真右）



公式晩餐会がお開きとなった後も、同じ会場で、奈良のお酒や豪州大麦から醸造された焼酎、そして古い歴史を誇る醸造所で作られたウイスキーが振る舞われ、多くの参加者が、硬軟取り混ぜた様々な観点から、思い思いの日豪関係を語り合っていたことが印象的でした。これは、友好協力基本条約が目指した、貿易関係だけではない、様々な分野の人と人との交流にしっかりと裏打ちされた緊密な日豪関係を垣間見ることができた一夜となりました。



AJBCC Future Leaders 等の方々及び古谷在メルボルン総領事と

(了)